

日本工学院専門学校	開講年度	2020年度	科目名	サービス介助	
科目基礎情報					
開設学科	情報ビジネス科	コース名	コース共通	開設期	後期
対象年次	2年次	科目区分	選択	時間数	15時間
単位数	1単位	開講時間	時間割外	授業形態	講義
教科書/教材	毎回レジュメ・資料を配布する。参考書・参考資料等は、授業中に指示する。				
担当教員情報					
担当教員	山下 恵子	実務経験の有無・職種	有・救命救急士		
学習目的					
<p>突然の事故や病気など救急車を呼ぶような現場に遭遇したとき、救急隊員や医療従事者車での間、応急手当を行う必要がある。様々な事象の応急方法を理解することで対応できるようにする。また、サービス介助の高齢の人や障がいがある人を手伝うときの「おもてなしの心」と「介助技術」を学び、相手に安心してもらう方法を学ぶ。</p>					
到達目標					
サービス介助として、高齢、聴覚障がい者、車いす利用者、視覚障がい者への対応方法を理解する。					
教育方法等					
授業概要	サービス介助として高齢者、障がい者への対応方法を説明する。				
注意点	授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。また、授業時数の4分の3以上出席しない者は試験を受験することができない。授業の進捗状況により、内容が前後する場合がある。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題	50%	試験と課題を総合的に評価する		
	小テスト				
	レポート				
	成果発表 (口頭・実技)				
	平常点	50%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
授業計画（1回～15回） 1回（2）時間 ※45分を1時間とする					
回	授業内容	各回の到達目標			
1回	ガイダンス	応急宛てのポイントについて理解できる			
2回	高齢者への理解（1）	高齢者への対応方法について理解できる			
3回	高齢者への理解（2）	認知症について理解できる			
4回	高齢者への理解（3）	疑似体験を通じて白内障について理解できる			
5回	車いす利用者への理解（1）	車いす利用者への対応方法が理解できる			
6回	車いす利用者への理解（2）	疑似体験を通じて車いす利用について理解できる			
7回	車いす利用者への理解（3）	疑似体験を通じて車いす利用について相互理解できる			
8回	まとめ				